

平成20年度 府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">教育活動全体の活性化による水産・海洋の将来のスペシャリストの育成</p> <p>1 専門学科としての特色を生かした学力の充実・向上及び生徒の希望進路を実現する進路指導の充実</p> <p>2 生徒の規範意識の醸成等、生徒指導の充実による安心・安全な学校づくり</p> <p>3 部活動・ボランティア活動等の充実による特別活動の活性化</p> <p>4 保護者、地域、小・中・高等学校、関係諸機関との連携等、開かれた学校づくりによる教育活動全体の活性化</p> <p>5 教職員の資質能力の向上</p>	<p>《成果》</p> <p>1 学力向上フロンティア事業において、学力向上を目指した研究活動や生産販売活動、資格取得に関する多様な取組を実施し、学力面で一定の成果を得ることができただけでなく、学校が活性化し、地域との連携を深めることができた。 また、研究の成果が高い評価を受け、全国水産海洋系高等学校生徒研究発表大会において初優勝という快挙を達成した。</p> <p>2 一人一人に応じたきめ細かな指導を徹底し、国公立大学及び難関私立大学への合格者が激増した。就職においても、社会に貢献できる人材育成の観点から指導を強化し、充実した結果を残すことができた。また、目標として設定した離職の問題についても、改善が進んでいる。</p> <p>3 生徒募集に関しては、多くの輝かしい教育実践に後押しされながら、中丹地域に昨年度以上の広報活動を展開し、本校に対する理解を促すことができた。結果として定員を超える出願を継続して確保することができた。</p> <p>4 レスリング部、ボート部の全国大会への出場及びカッター同好会の日本海南部地区高等学校水産教育研究協議会カッターレース大会部門での初優勝、ボランティア同好会によるよさこい踊りの地域に根ざした活動等、部及び同好会の活動が活発になってきており、学校を活性化させる上で重要な役割を果たしている。</p> <p>5 一人一人を大切にしたり粘り強い生徒指導が学校全体に浸透し、日常の挨拶・マナー及び学習環境等が大幅に向上した。 課題であった下宿生の指導について、管理者との連携強化及び下宿訪問の増加により大幅に改善することができた。</p> <p>6 小中高連携事業の取組を拡大し、昨年度、26 小中学校延べ 1,077 名もの参加を得た。また、豊かな体験活動推進事業の指定を受け、宮津市立栗田中学校・栗田小学校と命の大切さを学ぶ活動に取り組み、貴重な体験をするとともに地域の活性化に大きく貢献できた。このような各種取組により、本校の教育力を小中学校及び地域に発信することができた。</p> <p>7 基礎学力の充実を図る朝の読書及び全校一斉の漢字テストが定着し、整然と実施することができた。全ての生徒に基礎学力を身に付けさせる上で効果的な取組となった。</p> <p>8 「すてっぷあっぷる一む」を継続するとともに、今年度導入されたスクールカウンセラーの有効活用を図ることにより、課題を抱えている生徒の指導に役立てた。</p>	<p>1 危機管理意識に基づく安心・安全な学校生活の確立</p> <p>2 学力充実・向上及び希望進路の実現を図る一人一人に応じた指導の充実</p> <p>3 学力向上フロンティア校等、各種推進事業による各学科・コースの教育活動の活性化</p> <p>4 授業改善等による授業規律の確立</p> <p>5 生徒指導の一層の充実による問題行動等の防止</p> <p>6 部活動・生徒会活動・ボランティア活動等の活性化</p> <p>7 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化</p> <p>8 HP等、広報活動の一層の充実</p> <p>9 教職員の指導力向上を図る研修の充実</p>

	<p>《課題》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導に関しては、引き続き妥協のない揺るぎない姿勢を堅持し、組織としての指導を一層強化することにより、規律ある学校生活の確保に努める。 2 生徒募集については、引き続き丹後地区に強く働きかけていくとともに、中丹地区での学校説明会を依頼する。 3 老朽化や海水による塩害等によるトラブルを常に意識し、安心・安全の学校生活の観点から施設・設備の点検を継続する。 4 進路指導において、学年による学力等の差を安定したレベルに維持できる指導体制を構築する。また、研究活動や小論文指導において専門学科との連携をさらに強化し、生徒の専門性を深化させるとともにモチベーションの向上を図る。 5 学科改編の趣旨に沿った各学科・コースの教育内容の充実、特に集中実習のあり方については、今後も検討していく。 	
--	--	--

[評価の方法] 評価は具体的方策の項目ごとにA～Dの4段階で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

[成果と課題の記入方法] 分掌・教科全体で記入。ただし、各分掌・各教科の実情により重点目標ごとに記入してもよい。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	教職員の指導力向上を図る取り組みを分掌・教科で推進する。	① 分掌・教科による各種研修内容充実により教職員の指導力の向上を図る。 ② 学校評議員による授業参観の定着や保護者による外部評価の実施割合を向上させ、結果を学校経営に反映させるとともに教職員の意識改革、授業改善につなげる。	B C	B	B	①ほぼ計画どおり研修会を実施し、指導力の向上に繋げることができた。 ②通学生保護者のアンケート回収率(26%)を上げる工夫が必要である。
	魅力ある学校づくりを推進する。	学力向上フロンティア事業企画を推進する。	C	C		①多くの成果を得ることができた。事業の発展的な継続が課題。
総務企画部	小中学校との連携を強化し、志願者数の確保に努める。	① 400人以上の中学生を海洋高校の体験に招く。 ② 推薦・一般をあわせた出願者数を140人以上とする。	B B		C	①体験学習、見学会、個別相談会などで、500名来校 ②合計138人。
	広報活動の活性化を図る。	① HPに携帯向けサイトを作成するとともに、デザインを刷新し、月4回以上更新する。 ② PTA及び中学生保護者向けメールによる情報配信を定着させ登録者数をPTA100人、中学生保護者30人以上を目指し、PTA向け30回/年、中学生保護者向け10回/年以上配信する。 ③ 海洋だよりを年10回以上発行する。 ④ 1年生近況紹介、先輩活躍紹介(30人分以上)、先輩からのメッセージ、カレンダー(年8回以上)を発行する。	A D — C		C C	①HP更新回数に多大な成果があった。 ②今後も、メール配信の充実を図りたい。 ③海洋だより等を本校生徒向けに発信する必要あり

総務企画部	専門教育の充実と成果の発信に努める。	① 教育長表彰者50人以上、日本海南部水研最優秀賞を獲得する。 ② 学習・研究成果発表で、6月、9月、1月にそれぞれ各学科・コースから1項目以上発表を実施する。	—	C	B	①教育長表彰34名 ②代表者発表の部分もあった。2年生の発表を実現できた。 ①役員会参加率に課題を残した。 ②行事への参加者は全体を通して見ると向上した。 ①人権学習に今日的な課題を多く取り入れた。 ②事後感想文は、概ね肯定的な意見が多くを占めた。
	P T A活動に多くの会員に関与してもらえるように努める。	① 各委員会の目標や内容を明確化し、各委員会の活動を活発化させる。各委員の参加率5割以上を目指す。 ② 年間を通じてさまざまなニーズに応えることのできる多彩な行事を企画することで多くの会員にP T A活動に参加してもらえるよう努力する。参加人数20人以上を目指す。	—	B		
	人権教育の充実を図る。	① 人権について視野を広げ、人間理解を深める。 ② 周りを思いやる心を育てる人権学習を企画する。「よかった」という回答7割以上を目標とする。	B B	B		
教務部	学力の向上を図る。	① 評価規準を明確にした年間指導計画・シラバスの作成による生徒の学習意欲の向上を図る。 ② 教科と連携した習熟度別授業の機能的な運用を図る。 ③ 教科・学年部と連携し、生徒の家庭学習の習慣化を図る。	B B B	B	B	①生徒授業評価満足度はA ②家庭学習の定着に向け、各教科の取組は積極的になされているが、生徒の定着に課題が残った。 ①学年部・教科・家庭と連携し粘り強く指導した結果、不認定科目の減少につながったが、さらに原級留置・中途退学の減少に向けた取組が必要がある。 ①授業規律を確保することができたが、教員の認識の個人差が大きい現状は改善できていない。 ①授業改善に向けた取組が各教科でなされたが、教科により差が大きく、学校全体のものとはなっていない。
	原級留置・中途退学の防止を図る。	① 学年部・教科との連携を図り、生徒の状況把握と個に応じた指導を行う。 ② 教科と連携した定期考査前補充授業等の個別指導を実施し、不認定科目の減少に努める。 ③ 成績不振ならびに欠席の多い生徒に対し、学年部と連携し積極的に保護者召還を行う。	B A B	C		
	授業規律を確立する。	① 授業規律の確立に向けた教員の目線あわせを行う。 ② 教科担当者会議や授業状況調査による状況把握を行う。 ③ 授業規律報告用紙の有効活用と関係分掌と連携して事後指導の徹底を図る。	C B A	B		
	授業改善を推進する。	① 研究授業週間を設定し、授業公開・研究授業を実施し、教科指導力の向上を図る。 ② 生徒による授業評価を実施し、授業改善に生かす。 ③ 教科と連携し、シラバス、評価規準の改善を図る。	A A B	B		

生徒指導部	授業規律報告用紙の十分な活用。	① 授業だけでなくあらゆる場面で指導し、指導に従えない生徒については報告用紙の提出を告げ、確実に提出させる。	B	B	A	①報告用紙は講師しか出さない現状がある。
	服装・頭髪・化粧の指導	① 全校集会、式典、定期テストの際には必ず服装・頭髪・化粧の点検を行う。点検に不合格になった生徒については、家庭連絡とやりきる指導を確実にを行う。	A	A		①化粧は撤廃できた。
	生徒会活動の充実	① 学校祭・球技大会他の生徒会活動を活発に行う。	A	A		①自ら動き出した。
	下宿訪問による下宿生の日常生活の向上	① 下宿訪問を全教職員で行い、下宿生の日常生活の安定と改善に取り組む。	A	A		①下宿生の指導事象が激減した。
進路指導部	望ましい職業観や進学意識を育成する。	① 2年生進路目標の決定(2月末)70%:キャリアガイダンスの内容を含んだ進路ホームルームを系統的に立案し、主体的に運用する。(1年:8回、2年:9回、3年:6回) ② 進路希望未定者数を5名以内:進路指導部による個人面談を実施する。(3年:6月に全員、2年:2月に全員) ③ 初年度離職率10%未満:卒業生の状況調査を実施する。(就職:2月、進学:随時)	B	B	C	①計画に基づきHRを実施した。 ②3年生は1学期に実施、2年生は2月に実施した。 ③2月に調査を実施した。
	進路先に応じた学力等を把握し、育成して、希望進路の内定(合格)につなげる。	① 1次内定率を80%以上:学年一斉の外部模試等を計画的に実施し、有効に活用する。(1・2年:4回、3年:3回) ② 外部試験の偏差値向上率3P以上:就職対策である就職補習、面接練習(8回)、模試等を適切に運用する。 ③ 進路意識調査で80%以上の満足度:進学補習の実施率(90%)を定着させ、参加率(80%)を向上させる。	A	A		①計画に基づき指導した。 ②基礎力診断テストの偏差値は3年生が2.1P上向く ③参加率80%、今後参加率上昇を目指す。
保健部	基本的な生活習慣の確立を目指し、「早寝、早起き、朝ごはん」運動の継続的展開を図る。	① 学期に1回生活状況調査を実施し、課題のある生徒には個人面談を実施する。 ② 各分掌と連携して情報の共有化を図り、効率的に指導にあたる。	B	B	B	①生活状況調査が定着し、課題を持つ生徒の絞り込みと面談ができた。 ②校内に限らず、PTAとの連携ができた。
	個々の課題に応じた指導の充実を図る。	① 「すてっぷあっぷるーむ」の充実と分掌間の連携強化を図る。 ② 課題のある生徒の指導体制を確立する。	B	B		①課題のある生徒の指導が、組織的に取り組めた。
1学年部	将来の希望進路に応じた学科選択指導を充実させ、進路実現に必要な力を養成する。	① キャリアガイダンス年間5回:総務企画部、進路指導部と連携して実施する。(回数は学年部主体のもの) ② コース選択満足度80%:専門教科、各部ガイダンス等における指導を学年が補助する。 ③ 2学期末分野決定率70%:2学期までに分野を決定し、3学期から分野別進路指導を実施する。 ④ 外部試験等年間6回:外部試験や適性検査等を実施し、学科選択や面談に活用する。 ⑤ 添削指導年間20回:文書能力:行事や読書等で、意見や感想を書かせ、添削指導を繰り返す。	A	A	C	ガイダンス5回 満足度82% 決定率96% 全員受検8回 (オリジナルシートの活用) 添削17回

1 学年部	学習意欲の喚起と家庭学習習慣の確立を図り、学力を向上させる。	<p>① 個人面談年6回 モチベーション育成プログラム：個別指導を徹底し、学習意欲を向上させる。</p> <p>② 海洋マイスター4回一斉受験 インベーションプログラム：海洋マイスターを全員受験させ、浸透させる。</p> <p>③ 200日、家庭学習伸び時間50分 家庭学習：ステューディアSPの一部を学年が主体的に運営する。</p> <p>④ 外部試験伸び率3P向上 学力伸長プログラム：外部試験前に学力強化週間を設け、効果的に伸長を図る。</p> <p>⑤ 試験対策時間学年末考査3時間 定期試験対策：考査1週間前から学習状況を毎日把握し、指導する。</p> <p>⑥ 学年末欠点所有者数3人未満 個に応じた指導：考査前補習と進学補習+に積極的に参加させる。</p>	—	—	D	面談4回	<p>受験3回</p> <p>156日、+12分（考査対策より） (①+30分、②+24分、③-18分) 基礎力診断テスト（+1.0P） （指導は順調に実施する。） 2. 8時間/日 （指導は順調に実施する。）</p>		
	規則正しい生活習慣と社会に通用する規範意識を養成する。	<p>① 3学期授業規律カード件数0件 授業規律の確保：HR環境を整え、授業内での問題行動を見逃さない。</p> <p>② 朝食摂食率80% 朝食と睡眠：定期的に調査し、保健部と連携し個別指導で状況を改善していく。</p> <p>③ 部活動定着率80% 部活動の定着：通年積極的に呼びかけ定着させる。活躍している生徒の広報。</p> <p>④ 学年標語アンケート達成感75% 学年標語：共通「ルールと約束、挨拶と礼儀、言葉遣い」を徹底させる。</p> <p>⑤ 3学期生徒指導件数0件 生活指導の徹底：厳格な姿勢で生徒と対応し、人間関係の甘えを排除する。</p> <p>⑥ 3学期提出物厳守率90% 提出物の徹底指導：チェックリストを作成し、期限内の提出を定着させる。</p>	C	—		D		C	朝食88% 「殆ど食べていない」(8・3・3→3・3・5人)
	保護者理解につとめ、協力体制を確立し、信頼関係を深める。	<p>① 保護者会出席率30% 保護者会：指導方針への理解。各行事、保護者会の積極参加を呼びかける。</p> <p>② アンケートでの学年指導満足度80% 保護者連絡：欠席や早退、生徒状況等について、きめ細かく対応する。</p> <p>③ 学年通信7回/年</p> <p>④ 保護者コメント回収率70% 相互理解：通信を定期的に発行し、保護者コメント欄等で意見を聞く。</p>	A	—					B
2 学年部	学級・学年活動の充実	<p>① 海洋祭、修学旅行を成功させる。</p> <p>② 学級活動を充実させる。</p> <p>③ 個人の課題・目標を適切に設定させ指導をする。(生徒指導上の内容を含む)</p> <p>④ 個人面談を計画的に行う。</p> <p>⑤ やる気のある生徒・集団を育成する。</p>	B	C	C		B		

2 学年部	生徒指導の充実	① 「特別指導0」、「規律カード0枚」の学期をつくる。 ② 服装・頭髪、クラブ加入率(80パーセント)の良好な状況を維持・向上させる。 ③ 保護者とともに考え、指導の方針を確立する。 ④ 遅刻欠席を減少させる。 ⑤ 生活日誌を効果的に活用する。 ⑥ 下宿生の生活を改善させる。	B A B C A A	B B	生徒個々の問題に対する指導が中心であった。遅刻指導に、時間を割かれたことは不満である。
	進路指導の充実	① 希望進路に合わせた資格取得を推進させる。 ② 改善すべき個人目標の課題・目標の適切な設定・指導を行う。 ③ 学習成績・模試成績を伸長させる。 ④ 進路補習の出席率を100%にさせる。 ⑤ 学校外の実習に積極的に参加させる。	B B B C B		
3 学年部	各生徒の第一希望の進路を実現する。	① 5月までに面談等を通じて各生徒に適正な進路希望先を決定させる。 ② 試験に打ち勝つ学力を身につけさせるために補習の受講及び家庭学習の徹底を図る(4月～2月) ③ 1学期の追認審査で全科目合格させる。 ④ 進路指導部との連携を密にして円滑な進路指導を図る。	B B C B	B B	①第1希望進路の実現率93% 5月の希望進路決定率89.2% ②進学補習の参加率 75% ③合同進路部会の数 7回
	卒業後、進学先・就職先で生徒が活躍できるよう指導する。	① 大学進学生徒については自宅学習を徹底し、センター試験得点率、平均40%以上を目指す。 ② 各自、努力目標を設定し、卒業までその努力を続けさせる。また、学年団でその様子を指導監督する。	C B		
海洋科学科	(1年生) 専門学習への動機付けを図る。	① 科学科のガイダンスを年2回以上実施する。 ② 科学科志望者への面談・指導を年2回以上実施する。	B D	B A	①全体としての指導のみ。 ②3学期を中心に活動。 ①ほぼ予定どおり ②全員受検した。
	(2年生) 専門学習への動機付けを図る。資格取得の増加を図る。	① 専門系施設への訪問・見学等を年8回以上実施する。 ② 漁業検定・食品検定で、全員受検を目指す。	B A		
	(3年生) 大学進学希望生徒の動機付けと希望進路達成を図る。	① 教育長表彰者を80%以上とする。 ② 関連大学合格を50%以上とする。	B B	C	①17人中14人で、82.3% ②目標達成
	会議の定例化	海洋科学科会議及び合同部会を定例化し、情報交換と共通認識に努める。(学科教員で年20回以上、合同部会を年10回以上実施)	—	D	合同部会が不足した。

海洋工学科	(航海船舶コース) 学力向上フロンティア事業に係わる取り組みを発展させる。	① 大学・企業との連携 ② 改良底曳網の試験操業とデータの収集 ③ 資格補習の実施	C B C	C	B	①フクヤでの鮮魚販売 ②クラゲ発生せずも順調 ③年間を通じたものはできず ④企画への算入は難解 ⑤成分分析のみ ⑥QSS監査は通過 ⑦進展せず
	(海洋技術コース) 学力向上フロンティア事業に関連付け、土木施工、作業潜水等に必要とされる知識と技術を習得させる。	④ 漁獲物販売に係わる企画からの生徒参加 ⑤ 塩の製造販売の申請 ⑥ QSS基準の周知徹底 ⑦ 訓練記録簿の活用	C D B C			
海洋資源科	(栽培環境コース) より高い知識技術を習得させ学力向上フロンティア事業に係る取り組みと関連して学習させる。	① 関連進路先の内容を60%以上実現させる。 ② 国家試験潜水士9名合格させる。 ③ 総合実習、ダイビング、課題研究で微細な事故ゼロにする。	A D A	B	B	①就職先や大学で72%以上を実現した。 ②5名合格、3学期受験予定なし。 ③事故やミス一切なし。
	(食品経済コース) 学力向上フロンティア事業に関連付け、より実践的な力を身につけさせる。	① 本校での新魚種(トラフグ)の養殖技術を軌道にのせ、本年度内に出荷販売する。 ② 栽培漁業技術検定の合格率を向上させる。 ③ ヒラメの種苗生産量を向上させる。	B D A			
事務部	学習環境の整備と施設・設備の安全管理の徹底に努める。	① 希望進路実現にむけて取り組み、就職一次内定率の向上を図る。 ② 資格取得に力を入れ、取得資格数の向上を図る。	D A	C	B	①一次内定率79% ②196個(2月パーソナルスピード検定・1月食品技能検定を除く)
	経費の節減に取り組む。	① 来校者には丁寧な対応を心掛けるとともに、不審者の侵入を阻止するため、その確認及び把握については複数で行う。 ② 学習環境に関わる定期検査(照度測定、騒音測定、空気測定及び水質検査)については、各分掌と連携を取りながら実施し、改善箇所の早期発見・早期改修に努める。(年間各項目1回) ③ 施設・設備の安全点検を行い危険及び改善箇所の早期発見・早期改修に努める。特に老朽化や塩害等によるトラブルを未然に防ぐために徹底した点検を行う。(各学期2回)	B C A			
寮務部	規律正しい生活を高める。	① 義務的経費等の7項目の支出状況を職員会議で報告し、経費の節減について、全教職員に協力を依頼する。(毎月1回)	B	D	D	①毎月報告依頼(12回) +経費節減3項目
	舎監による指導体制の一致を図る。	② 職員会議後舎監会議を開き情報の共有化を図る。	A			

実習船 「みずなぎ」	学校目標の安全・安心に沿 い、運行できるように努める。	① 生徒の乗船中は、毎日生徒・職員の体調チェックを行う。(チ ェック表を使用) ----- ② 国際航海・国内航海は、非常退船避難操練を行う。	A ----- A	A		①日数のある航海10回で 10回とも行う *但し生徒記入漏れある。 ②ナホトカ国際航海・大阪 国内で退船避難操練を行 う。
	実習については船舶職員と 教員・学校との連携を深め る。	① 船舶職員は教職員と実習前の打合せを綿密に行う。 ----- ② 実習終了後は反省会を行い、それを基に今後の実習の組み立 てを行う。 ----- ③ 実習中は、生徒との触れあう機会を多く持つため、マンツー マンで指導を行う。	A ----- B ----- A	A	A	①打合せ 9航海で9回行 う 100% ②反省会 9航海で7回行 う77% 教師の都合でで きず。適度に各部署で行う。 出入港作業・航海当直
	研修 計画	① 服装のマナー向上につい て ② やる気を育てる講演会	① 本校制服業者社長による講演を1年生入学当初に行う。 ----- ② 生徒のやる気を引き出す講演会を開催する。	A ----- A	A	A
総務 企画部	夏季研修<8月実施他> ----- 校内研修(教務部と共修)	「水産教育の充実について」、「教科指導力の向上について」、 ----- 「集中実習の充実について」からテーマ設定する。 ----- 「研究授業」の実施	C ----- B	C	C	8月にフロンティア中間 発表会、12月に水研研修 会が実施できた。
教務部	教科指導力の向上と授業改善 ----- 評価の改善	公開授業・研究授業の実施と授業改善に向けての研修 ----- 生徒の学習意欲・学力向上に向けた評価の在り方についての研 修	A ----- C	B	B	公開授業及び研究授業に ついては昨年度よりも参加 率が格段に向上し、授業改 善に向けた研修となった が、評価の改善に向けた研 修については、一部教科に おいて指導主事からの指導 助言にとどまり、全体のも のとならなかった。
進路 指導部	校内研修の2回実施	大学別(個別)指導体制を各部と連携して徹底し、その成果を 分析する。 ----- 合同部会等を開催し、共通認識を図る。 学年(1年5回、2年7回、3年7回)、補習担当者5回。	C ----- C	C	C	10/28に実施した。 ----- 進路HRを企画、検討した。
保健部	生徒理解について	心や体に課題を抱える生徒や発達障害のある生徒の理解と対応 について研修を深める。	C	C	C	3年生の実践をもとに次 年度への方向性を見いだそ うとしたが、現状認識にと どまった。

研修計画	海洋科学科	金魚の種苗生産法について	専門業者を訪ね、種苗生産技術習得を図る。 金魚の種苗生産を成功させる。	A	A B	A	研修成果を経て、小学校等への配付が実現できた。
	海洋資源科	画像処理とマルチメディア	教職員の情報技術を高めるとともに、著作権等についての理解を深める。	D	D	D	研修を実施せず
次年度への改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済不況に伴う求人数の減少を考慮し、進路指導の一層の充実を図る。 2 新学習指導要領を見据えて、各学科・コースの教育内容の充実と教科指導力の向上を図るとともに、集中実習の在り方についても検討する。 3 学力向上フロンティア校等、各種推進事業による各学科・コースの教育活動の活性化を図る。 4 生徒指導については、組織的な指導を一層強化し、規律ある学校生活の維持・継続に努める。 5 生徒募集については、引き続き中丹・丹後地区に強く働きかけていくとともに、海洋高校の教育活動を知らせるための広報活動に力を入れる。 6 近年減少傾向にある原留・中退についても、限りなく0に近づけるためにきめ細かで組織的な指導の徹底を図る。 7 生徒の資格取得に関するスケジュール管理に努め、受験前の指導・対策を充実させ合格率のアップを目指す。 						